



令和6年度

## 茨城県優良図書紹介【小学校高学年向け】

### 『今日もピアノ・ピアーノ』

有本綾/作、今日マチ子/絵（Gakken）



人が何かに挑戦するとき、そのどんなことにも共通する“コツ”があった。なかなかうまくいかないとき、思うように前に進めないときは「ピアノ・ピアーノ」を思い出せ！？おじいさんが伝えたい、その本当の意味とは…。人との出会いが人生を変え、自分の思いを大切にすることを教えてくれる話。

### 『人間になりたかった犬』

今西乃子/作、福田岩緒/絵（新日本出版社）



犬のシロが犬養史郎という人間になった時、様々な人に出会ったり多くの難題に直面したりした中で、真の人助けとは何かを気づき、その姿を描いた心あたたまるお話。

### 『アゲイン』 あんずゆき/作、丹下京子/絵（フレーベル館）



「わたしには関係ないと思ってた」もしお父さんのお店がつぶれてしまったら…だれもが支援を受け<sup>しえん</sup>る側になる可能性があることを知った、アオイがとった行動とは？「子ども食堂」を通して、助け合って生活していくことの大切さを知るお話。

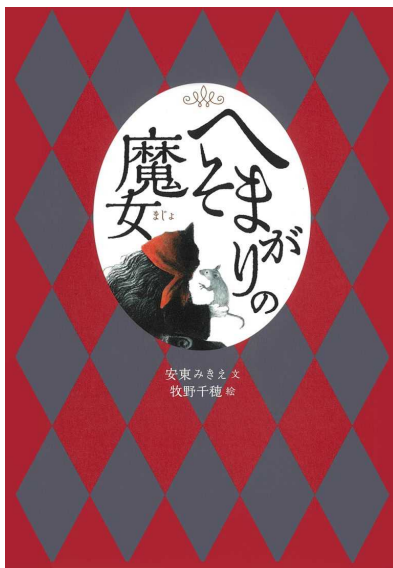


## 『給食が教えてくれたこと』 松丸 奨 (くもん出版)

給食は子どもたちの人生を支えるという信念のもと、さらに高みを目指すべく、学校栄養士にとどまらず、世界の食を見て、食育授業をするようになったチャレンジ精神旺盛な青年のお話。

## 『へそまがりの魔女』

安東みきえ/文、牧野千穂/絵 (アリス館)



暗い森の中に年老いた魔女が住んでいた。ある日、身寄りのない娘がやってきて、魔女の家に住ませてほしいと懇願した。初めは、冷たく突き放していた魔女でしたが、やがて一緒に暮らし、娘に森で暮らしていく術や生きる上での大切なことを教え込み、子どもが大切にされる平和な国へと導いたのでした。誰にも心を開かない魔女が、優しさを味わったことのない娘と心を通わせていく。思わず胸がキュンとなる作品。

## 『ともだち』 柳月美智子 (小学館)



小学校高学年になると、友達って何だろうとふと疑問が生まれることがある。楽しい学校生活もあるけれど、ふと孤独感を感じる時もある。そうした時、いろいろな子がいて、皆いろんな気持ちがあっというんだ。お互いに支え合っているのが友達だと感じさせてくれるお話。



『直紀とふしぎな庭』 山下みゆき/作、もなか/絵（静山社）

駅前で偶然見かけた両目が閉じたままの子猫。それは昔、12年前におじさんが拾った子猫だった?! なんだか、ぼくらがこっちに来るのを待ってるようにも見える。子猫について行った先に、出会ったものとは…。



『となりのきみのクライシス』

濱野京子/作、トミイマサコ/絵（さ・え・ら書房）

「大人に、子どもはだまってる、って言われたら、なにが言えるんだろう」いつもの毎日に、潜んだ危機!? がまんの限界がおとずれたとき、子どもたちはついに声をあげる!



『夏に、ネコをさがして』 西田俊也（徳間書店）

小学校最後の夏休み。佳斗は亡くなったおばあちゃんが飼っていたネコ、テンちゃん探しをする中で、ネコのことや自分自身の成長に気づくことができた感動作。



『カタリン・カリコ  
mRNAワクチンを生んだ科学者』

増田ユリヤ（ポプラ社）

どんな苦難にも耐え、研究に向かい合ってきた科学者カタリン・カリコ。悩んだり苦しんだりした時に、希望と勇気を与えてくれるノンフィクションストーリー。



## 『あなたのこころは空のよう』

ブロンウェン・バラード/作、ローラ・カーリン/絵、  
広松 由希子/訳（BL出版）

こころってふしぎ。目には見えないけど、たしかに自分の中にある。楽しいときは、うれしい気持ち。でも、いやなことがあって、どんよりした気持ちになったときは…どうしたらいいの？そのヒントがここに。